

第5次町総合計画

まちづくりワークショップ提言書 主な内容について

広報ましき 5月号に掲載しましたが、第5次益城町総合計画策定に伴い、これからのまちづくりについて住民の皆さんが意見を出し合った「まちづくりワークショップ」で、6つのグループに分かれて意見をまとめ、先月5日に町長に「提言書」を提出されました。内容が多岐にわたりますが、提出された提言書の主な内容を紹介します。

都市づくり(夢実らせ)

- 安全で利便性の高い道路の整備と公共交通の確保
例：コミュニティバスや乗合タクシーの検討など
- 効果的な土地活用による町の活性化
例：益城中央小学校施設・跡地を有効に活用するなど
- 多様な公園の整備
例：総合体育館、交流情報センター、秋津川河川公園、木山城址を一体化した公園の整備など
- 防災対策の推進
- 消防団活動の活性化
- 防犯対策の推進

医療・福祉 (ホット ほっと！)

- 医療費助成などの支援
- 健康診査の充実
例：夜、土日などの健診の実施など
- 学校給食の充実
- 顔の見えるコミュニティの形成
例：地域づくりの核となる人材発掘など
- 高齢者生き生き湧く惑感の充実
例：高齢者のワザ(技能)の活用やコンテストの開催など
- 障がいをもつ人とのコミュニケーション
- 障がい者の日常生活への支援
- 出産から子育てまでの支援の充実
例：プレーパークの整備など

益城中学校

- 環境
 - ・益城の町花である「梅」をもっと植える
 - ・リサイクル制度をつくる
 - ・回収ボックスでコインや商品券が出る仕組みをつくるなど
- 観光
 - ・益城をもっとアピールでき、若者が集まるようなイベントを実施する
 - ・飯田山を登りやすくするとともに、展望所、滑り台などの遊具を整備する
 - ・町のメーカーによる特産物を開発するなど
- その他
 - ・大型ショッピングセンターをつくるなど

産業経済(イイダス5)

- 付加価値の高い農業の振興
例：益城町内限定販売品の開発など
- 多様な農業経営への取り組み
例：農業従業員の雇用の安定など
- 食育など「食」への取り組み
例：生産・加工・販売・食文化研究の一体化など
- 付加価値の高い林業の振興
- 益城町の特性を生かした商業の活性化
例：もやい商店をつくるなど
- 企業誘致などの推進
例：付加価値の高い小規模工場の誘致促進など
- 地域資源を活用した観光振興

教育・文化(かけはし)

- 学校教育(心の教育)
 - ・地産地消による給食、
 - ・町の歴史や文化財を取り入れた教育の推進
 - ・史跡めぐりなどの野外教育の推進
 - ・子どもから大人まで参加できる町民塾の設置など
- 文化(町独自の文化の振興)
 - ・赤井城趾の町文化財指定と福田寺跡を含む測量・発掘調査・保護活用
 - ・益城の歴史、文化財などを紹介する魅力あるホームページの充実
 - ・里山遊歩道の整備(朝来山、船野山、飯田山、城山)など

木山中学校

- イベントの充実
例：自然とふれあうイベントや農業を体験できるイベントの開催など
- 学校教育の充実
- 生涯教育の充実
例：小中学生の自然体験を増やすなど
- 観光スポットの充実
- 道路・交通の整備
例：もやい商店をつくるなど
- 自然・環境を守る
- 福祉ボランティアの充実
- 土地利用
- お店などの施設の充実
- 医療機関の充実
- 公園施設の充実など

ワークショップ参加者の感想

- ❖今回の提言が、まちづくりのために活かされることを切に希望します。
- ❖今後もこのような住民の意見を聞く場をつくっていただきたいと思う。
- ❖年代を超えた人々と真剣に話し合いができたことが私の収穫になった。
- ❖参加された方の町に対する熱い想いを感じました。
- ❖自分自身が普段思っていることや考えていることを、他の人たちも思っているのだと知り、うれしく思った。このちょっとした出会いを大切にしていきたいと思う。

この提言書の全容は、町ホームページに掲載しています。また、役場企画財政課、交流情報センターで閲覧できます。

問い合わせ先

役場企画財政課 ☎ 286-3111 内線 233